

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査等の結果を含む記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報、診療記録等を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	経カテーテル大動脈弁植え込み術 (TAVI) を受ける高齢患者における術前多面的身体機能評価と術後成績との関連
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 循環器内科 准教授 西村和久
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2030年3月31日
対象となる方	本研究の対象は、2019年1月から2026年3月末までに、当院の循環器内科において診療を受け、同診療科の担当医よりリハビリテーションの依頼があった65歳以上の高齢患者とする。
利用する試料・情報等	調査項目は、①患者背景 (年齢、性別、形態評価、併存症、栄養評価、検査所見等)、②周術期およびリハビリテーション関連情報、③筋機能評価 (握力、体組成)、④身体機能評価 (SPPB、歩行能力、下肢機能、運動耐容能)、⑤フレイル評価 (Clinical Frailty Scale)、⑥日常生活動作能力 (Katz Index、Barthel Index) とする。
研究の概要 (目的・方法)	本研究は、経カテーテル大動脈弁植え込み術 (TAVI) を施行する高齢患者を対象として、術前に実施する多面的身体機能評価 (筋機能、歩行能力、バランス能力、ADL、フレイルおよび栄養状態) と術後の治療成績との関連を明らかにすることを目的とする。本研究により、TAVI 患者における術前身体機能評価の臨床的意義を明らかにし、周術期リハビリテーションにおけるリスク層別化および適切な介入方法の検討に寄与することを目指す。
個人情報の保護	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接

について	<p>特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。</p> <p>また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	<p>愛媛大学医学部附属病院リハビリテーション部 野村京平 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5723</p>